

4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の表3-4.1「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

○分析条件等

- ・適用している分析方法や分析機器等によっては、記入が不要な部分、記入が難しい部分等があると考えられますので、そのような場合には記入する必要はありません。
- ・複数回測定（併行測定）では、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、3回分を記入する場合があります。

○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があり、内標準法ではその比（例えばピーク面積比）もあり、またそれらの比例値もあり、このように各種のものがあります。記入にあたっては、いずれの値も可能です。

ただし、指示値の記入欄には、検量線の最高濃度、試料、空試験の3つ（3か所）あり、記入にあたっては3か所とも同じ種類（単位）のものとしてください。

○分析を実施しなかった項目の結果

複数の分析項目を含んでいる分析結果報告書（例えば、分析結果報告書〔9〕のPCB）の作成にあたって、分析を実施しなかった項目があった場合には、その項目の結果は「9999」と入力してください。なにも入力しないでエラーメッセージ（例えば、「分析結果……の検出下限値以上または検出下限値未満での検出下限値のいずれかは必須項目です。該当する値を入力して下さい。」）が表示される場合には、確定できませんので、ご注意ください。

○分析結果（数値の丸め方）

分析結果については、有効数字3桁としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

4-1 分析結果報告書〔1〕

土壌試料に関する分析結果報告書〔1〕の入力方法の詳細を記します

表4-1 土壌試料（鉛）（分析結果報告書〔1〕）

○表4-1(1)分析結果

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/kg。土壌1kgあたりの鉛（Pb）のmgとして記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
------	---

・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。

○表4-1(2) 検液の作成

分析結果報告書の名称は、**分析結果報告書[1～4] (共通)** となっています。

(3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。)

<試料液の調製> 容器 種類 容量 試料(土壌)量 塩酸(1mol/L) 種類 容量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、 で具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。 数値(半角)入力。単位:g。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、 で具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:mL。
<試料液調整後の放置時間> 試料液の調製から溶出操作(振とう)までの放置時間	数値(半角)入力。単位:時間。試料液の調製後直ちに振とうした場合には0(ゼロ)時間とする。30分では0.5時間とする。
<溶出操作> 容器の置き方/振とう方向 気温 気圧 振とう機 振とう回数 振とう幅 振とう方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:℃。振とう開始時の気温(室温)の概略値を記入する。 数値(半角)入力。単位:気圧。振とう開始時の気圧の概略値を記入する。 数値(半角)入力。単位:回/分。 数値(半角)入力。単位:cm。 <u>2時間連続振とう</u>
<振とう後の放置時間> 振とう終了からろ過(又は遠心分離)までの放置時間	数値(半角)入力。単位:時間。振とう後直ちにろ過した場合には0(ゼロ)時間とする。30分では0.5時間とする。
<ろ過等> 遠心分離 実施の有無 回転数 回転時間	コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位:回/分。 数値(半角)入力。単位:分。

ろ紙 種類	孔径0.45 μmのメンブランフィルターペーパー (MF)
メーカー	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
型式	具体的に記入。
方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
作成したろ液 (溶出液) 量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
< 検液 (溶出液) の作成後 >	
溶出液の作成から検定までの時間	
鉛	数値 (半角) 入力。単位: 時間。溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った場合には、0 (ゼロ) 時間とする。分析項目ごとに概略の時間を記入する。
銅	
ふっ素	
カルシウム	
溶出液の保存状況 保存方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
保存温度	数値 (半角) 入力。単位: °C。

○表4-1(3)分析の方法 (各項目の分析方法)

(3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値 (吸光度、ピーク高さ等) については、3回分を記入する。)

開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析 (前処理操作を含む) を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
< 前処理 >	
検液の量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
準備操作	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試験溶液の量 (定容量)	数値 (半角) 入力。単位: mL。
< 溶媒抽出等 >	
準備操作 (溶媒抽出等)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試験溶液の分量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
キレートの種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

溶媒の使用量 最終の定容量 最終溶液(試験溶液)の液性	数値(半角)入力。1回当たりの使用量。単位:mL。 数値(半角)入力。単位:mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<原子吸光法> 試験溶液の希釈 希釈倍率 電気加熱法 注入量 注入の方法 原子化の方法 モーファイア-の添加 原子吸光装置 バックグラウンド補正 測定波長	希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。 単位:μL。希釈しない場合には、「1」。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:nm。
<ICP発光分光分析法> 試験溶液の希釈 希釈倍率 装置 型式 バックグラウンド補正 超音波初ラフナーの使用 測定時間 測定波長	希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位:秒。 数値(半角)入力。単位:nm。
<ICP質量分析法> 試験溶液の希釈 希釈倍率 スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計 コリジョン・リアクションセル 水素化物発生 補正式による補正 その他 積分時間 質量数	希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 補正式による補正を行った場合には、補正前と補正後の指示値について「イオンカウント値」等、数値(半角)入力。 コンボボックスより選択。「行う」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:秒。 数値(半角)入力。
<検量線の作成等> 定量方法 方法	コンボボックスより選択。

内標準物質の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大濃度	数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限	数値（半角）入力。単位：mg/kg（土壌試料中の濃度）。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語又は数値を用いて記入する。 例（鉛：フレイム原子吸光法） 分析結果 (mg/kg) = (希釈した検液の濃度mg/L - 空試験の濃度mg/L) × 試験溶液の希釈倍率 × 試験溶液の量 (mL) ÷ 検液の量 (mL) × 1mol/L塩酸の量 (mL、例えば200mL) ÷ 試料（土壌）量 (g、例えば6g)

4-2 分析結果報告書 [2]

土壌試料に関する分析結果報告書[2]の入力方法の詳細を記します。

表4-2 土壌試料（銅）（分析結果報告書 [2]）

○表4-2(1)分析結果

表4-1(1)分析結果（鉛）を参考に記入する。

○表4-2(2)検液の作成

表4-1(2)検液の作成（鉛）と同じ。

○表4-2(3)分析の方法（各項目の分析方法）

表4-1(3)分析の方法（各項目の分析方法）（鉛）を参考に記入する。

4-3 分析結果報告書 [3]

土壌試料に関する分析結果報告書[3]の入力方法の詳細を記します。

表4-3 土壌試料（ふっ素）（分析結果報告書〔3〕）

○表4-3(1)分析結果

表4-1(1)分析結果（鉛）を参考に記入する。

○表4-3(2)検液の作成

表4-1(2)検液の作成（鉛）と同じ。

○表4-3(3)分析の方法（各項目の分析方法）

（3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値（滴定値、吸光度、ピーク高さ等）については、3回分を記入する。）

開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<蒸留操作>	
検液の量	数値（半角）入力。単位：mL。
濃縮	コンボボックスより選択。
蒸留 使用した酸	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
受器(全量フラスコ)	数値（半角）入力。単位：mL。
受器への添加	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
留出液の中和	コンボボックスより選択。
留出液の定容量	数値（半角）入力。単位：mL。
<吸光光度法>	
蒸留操作	コンボボックスより選択。
留出液の分取量	数値（半角）入力。単位：mL。
ランタン-アリザリンコンプレキソ溶液	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定波長	数値（半角）入力。単位：nm。

表4-1(2)検液の作成(鉛)と同じ。

○表4-4(3)分析の方法(各項目の分析方法)

(3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)

開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<キレート滴定法> 検液の量 準備操作 試料の希釈 希釈倍率 滴定量	数値(半角)入力。単位:mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。 数値(半角)入力。単位:mL。3回分を記入。
<フレイム原子吸光法> 検液の量 準備操作 試料の希釈 希釈倍率 原子吸光装置 バックグラウンド補正 測定波長 フレイム ランタ溶液の添加	数値(半角)入力。単位:mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:nm。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<ICP発光分光分析法> 検液の量 準備操作 試料の希釈 希釈倍率 装置 型式 バックグラウンド補正 超音波初ラザラーの使用 測定時間 測定波長	数値(半角)入力。単位:mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位:秒。 数値(半角)入力。単位:nm。

<イオンクロマトグラフ法> 準備操作 検液の希釈 希釈倍率 溶離液の種類 カラムの種類 イオンクロマトグラフ メーカー 型式 区分 注入量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 希釈倍率入力。希釈しない場合には、「1」。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：μL。
<検量線の作成等> 定量方法 方法 内標準物質の種類	滴定法以外の場合に記入する。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限	数値（半角）入力。単位：mg/kg（土壌試料中の濃度）。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、土壌試料（鉛）を参照する。

4-5 分析結果報告書 [5]

大気試料に関する分析結果報告書[5]の入力方法の詳細を記します。

分析を実施していない項目の分析結果や適用している分析方法や分析機器等により記入が不要な部分（又は記入が難しい部分）等があります。そのような場合には記入の必要は

ありません。

表4-5 大気試料（揮発性有機化合物）（分析結果報告書〔5〕）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。 <u>分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）</u> を記入。
分析結果（詳細項目） 分析の実施 分析結果	コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 。 「分析を実施」した場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	「分析を実施」した場合には、分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析結果（参照項目） 分析の実施 分析結果	分析結果（詳細項目）と同様に記入する。 ただし、分析結果については、1つの分析結果を記入する。複数回測定では代表値（例えば、平均値等）として記入する。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 分析時の温度 分析時の大気圧 圧力 単位	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 数値（半角）入力。単位：℃。 数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入する。

分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（ピーク面積等）については、測定回数分を記入する。
<試料の濃縮> 試料の希釈操作 希釈倍率 (圧希釈の場合) 加圧前圧力 加圧後圧力 圧力の単位 試料量 (濃縮量) 濃縮部 除湿部 濃縮部の加熱温度 トラップ管の加熱温度 パージガス	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 数値 (半角) 入力。希釈しない場合には、「希釈倍率」は「1」とする。 数値 (半角) 入力。 数値 (半角) 入力。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 数値 (半角) 入力。単位: mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 コンボボックスより選択。 数値 (半角) 入力。単位: °C。 数値 (半角) 入力。単位: °C。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
<GC/MS> GC 型式 MS 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。 「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: mm。 数値 (半角) 入力。単位: m。 数値 (半角) 入力。単位: μm。
カラム昇温条件	温度 (°C)、温度保持 (分)、昇温速度 (°C/分)、昇温回数 (回)とも数値 (半角) 入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
キャリヤーガス条件 種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。 単位: コンボボックスより選択。 数値 (半角) 入力。 単位: コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

注入 注入温度 注入方式	数値（半角）入力。単位：℃。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<測定用質量数> 測定用質量数	すべての項目とも、数値（半角）入力。 定量に用いた質量数1つを記入。
<標準ガス> 標準原ガス 区分 購入：メーカー名 標準原ガス 購入（調製）後の経過月 標準ガス 調製後の経過月分	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：月 数値（半角）入力。単位：月
<検出下限> 検出下限	数値（半角）入力。試料中の濃度（ $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）として記入。
<検量線の作成等> 定量方法 方法 （内標準法）種類 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。濃縮部中の量（n g）で記入。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量 単位 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。 数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。GCの注入量（n g）又は濃度（ppb又は $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 測定回数分を記入
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、土壤試料（鉛）を参照する。

4-6 分析結果報告書 [6]

水質試料（農薬：ジクロロボス及びフェノブカルブ）に関する分析結果報告書[6]の入

力方法の詳細を記します。

ジクロロボス及びフェノブカルブを同じ方法で分析した場合にはこの分析結果報告書 [6] に記入する。方法が異なっている場合には、ジクロロボスをこの分析結果報告書 [6]、フェノブカルブを次の分析結果報告書 [7] に記入する。

表4-6 水質試料（農薬：ジクロロボス及びフェノブカルブ）
（分析結果報告書 [6]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析結果 分析結果	<p>数値（半角）入力。単位：$\mu\text{g/L}$。</p> <p>「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。（分析を実施しない項目があった場合には、「検出下限値以上」に「9999」と入力）</p> <p>測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。</p>
分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	<p>検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。</p> <p>検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。</p>
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。</p> <p>分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（ピーク面積等）については、測定回数を記入する。

<抽出>	
試料量	数値（半角）入力。単位：mL。
試料からの抽出方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
溶媒抽出 塩化ナトリウム	数値（半角）入力。単位：g。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
溶媒の使用量 1回目	数値（半角）入力。単位：mL。
2回目	数値（半角）入力。単位：mL。
1回当たりの抽出時間	数値（半角）入力。単位：分。
抽出回数	数値（半角）入力。単位：回。
固相抽出 型式1	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。数値（半角）入力。
型式2	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
吸引速度	数値（半角）入力。単位：mL/分。
固相の脱水 吸引	コンボボックスより選択。時間は数値（半角）入力。単位：分。
遠心分離	コンボボックスより選択。時間は数値（半角）入力。単位：分。
その他	具体的に記入。
溶出 溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
量	数値（半角）入力。単位：mL。
溶出液の脱水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
濃縮方法	
ロータリーエバポレーター	コンボボックスより選択。
KD	コンボボックスより選択。
窒素吹き付け	コンボボックスより選択。
その他	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
定容量（抽出液）	数値（半角）入力。単位：mL。

<クリーンアップ> 抽出液の分取量 クリーンアップ方法 濃縮方法 ロータリーエバポレーター KD 窒素吹き付け その他 カラム溶出液の脱水 定容量（測定用試料液量）	数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。
<GC/MS又はGC（FTD, FPD, ECD）> GC 型式 MS 型式 装置型式	すべての項目とも、コンボボックスより選択。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度（℃）、温度保持（分）、昇温速度（℃/分）、昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
キャリヤーガス条件 種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。 単位：コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。 単位：コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
メイクアップガス条件種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。 単位：コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。 単位：コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

注入 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。単位：℃。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定用質量数	すべての項目とも、数値（半角）入力。 定量に用いた質量数1つを記入。
<標準原液> 標準原液 区分 購入：メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<検出下限> 検出下限	数値（半角）入力。試料中の濃度（ $\mu\text{g/L}$ ）として記入。
<検量線の作成等> 定量方法 方法 シツパイク 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 具体的に記入。 数値（半角）入力。測定用試料液への添加量（n g）で記入。
ターゲット 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	コンボボックスより選択。 具体的に記入。 数値（半角）入力。試料への添加量（n g）で記入。 数値（半角）入力。単位：％。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量 最高濃度の指示値	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。 GCへの注入量(n g)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 最小量と同じ。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 測定回数分を記入
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
<参考：分析用試料の調製> 使用した容器 使用した水	（水で1000倍希釈して調製する方法） コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分取した共通試料の量 定容量	数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：mL％。
分析用試料を調製してから分析操作（抽出操作）までの時間	数値（半角）入力。単位：分。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。

計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、土壌試料（鉛）を参照する。
-----	--

4-7 分析結果報告書 [7]

水質試料（農薬：ジクロロボス及びフェノブカルブ）に関する分析結果報告書[7]の入力方法の詳細を記します。

ジクロロボス及びフェノブカルブを同じ方法で分析した場合には分析結果報告書 [6] に記入し、この分析結果報告書 [7] に記入しない。

表4-7 水質試料（農薬：ジクロロボス及びフェノブカルブ）
（分析結果報告書 [7]）

表4-6 水質試料（農薬：ジクロロボス及びフェノブカルブ）を参考に記入する。
--

4-8 分析結果報告書 [8]

水質試料（ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA)）に関する分析結果報告書[8]の入力方法の詳細を記します。

表4-8 水質試料（PFOS及びPFOA）（分析結果報告書 [8]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析結果 分析結果	数値（半角）入力。単位： <u>ng/L</u> 。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。（分析を実施しない項目があった場合には、「検出下限値以上」に「9999」と入力）測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。

分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（ピーク面積等）については、測定回数分を記入する。
<前処理> 試料量 試料からの抽出方法 試料のpH調節	数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 コンボボックスより選択。 「1. 行う」を選んだ場合には、pH法を記入。
固相抽出 型式1 型式2 吸引速度 固相の脱水 吸引 遠心分離 その他 溶出 溶媒 量 溶出液の脱水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL/分。 コンボボックスより選択。時間は数値（半角）入力。単位：分。 コンボボックスより選択。時間は数値（半角）入力。単位：分。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
クリーンアップ方法	コンボボックスより選択。 「1. 行う」を選んだ場合には、具体的な方法を記入。
濃縮方法 ロータリーエバポレーター KD 窒素吹き付け その他	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
定容量（測定用試料液）	数値（半角）入力。単位：mL。
<LC> メーカー 型式	具体的に記入。 具体的に記入。

試料 注入量	数値（半角）入力。単位： μ L。
カラム 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
内径	数値（半角）入力。単位：mm。
長さ	数値（半角）入力。単位：mm。
カラム槽 温度	数値（半角）入力。単位： $^{\circ}$ C。
流速	数値（半角）入力。単位：m L / 分。
<MS又はMS / MS>	
メーカー	具体的に記入。
型式	具体的に記入。
イオン化 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検出 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
キャピラリー電圧	数値（半角）入力。単位：k V。
コロン電圧	数値（半角）入力。単位：V。
コリジョンエネルギー	数値（半角）入力。単位：e V。
測定質量数	すべての項目とも、数値（半角）入力。 定量に用いた質量数を記入。
<標準原液>	
標準原液 区分	コンボボックスより選択。
購入：メーカー名	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<検出下限>	
検出下限	数値（半角）入力。試料中の濃度（n g / L）として記入。
<検量線の作成等>	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。
シリンジスパイク 使用の有無	コンボボックスより選択。
添加物質	具体的に記入。
添加量	数値（半角）入力。測定用試料液への添加量（n g）で記入。
カゲート 使用の有無	コンボボックスより選択。
添加物質	具体的に記入。
添加量	数値（半角）入力。試料への添加量（n g）で記入。
回収率	数値（半角）入力。単位：%。
検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小量	数値（半角）入力。 LCへの注入する標準液濃度（n g / L）を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大量	最小量と同じ。

最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。測定回数分を記入
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
<参考：分析用試料の調製> 使用した容器 使用した水	（水で1000倍希釈して調製する方法） コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分取した共通試料の量 定容量	数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：mL%。
分析用試料を調製してから分析操作（抽出操作）までの時間	数値（半角）入力。単位：分。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、土壌試料（鉛）を参照する。

4-9 分析結果報告書 [9]

底質試料に関する分析結果報告書[9]の入力方法の詳細を記します。

分析方法（パックドカラムーガスクロマトグラフ法(GC/ECD)、キャピラリーカラムーガスクロマトグラフ法(GC/ECD)、キャピラリーカラムーガスクロマトグラフ四重極型質量分析法(GC/MS)又はキャピラリーカラムーガスクロマトグラフ高分解能型質量分析法(GC/MS))により記入の必要ない欄がある。方法により適宜必要な欄（該当する欄）に記入する。

表4-9 底質試料（PCB）（分析結果報告書 [9]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の数）を記入。
分析結果 分析結果	数値（半角）入力。単位： $\mu\text{g}/\text{kg}$ 。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。（分析を実施しない項目があった場合には、「検出下限値以上」に「9999」と入力）測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。 なお、GC/MSでは1～10塩素化物の濃度及びPCB濃度のすべてを記入する。GC/ECDでの1～10塩素化物の濃度については、測定可能であれば結果を記入する（測定していない場合には、「検出下限値以上」に「9999」と記入する）。

分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（ピーク面積等）については、測定回数分を記入する。
<アルカリ分解、抽出> 試料のはかり取り量 アルカリ分解 アルカリの使用量 分解 温度 時間	数値（半角）入力。単位：g。測定回数分を記入する。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：℃。 数値（半角）入力。単位：時間。
ろ過に使用したろ紙	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
抽出 溶媒 種類 抽出回数 溶媒量(全使用量)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：回。 数値（半角）入力。単位：mL。
サロゲート 添加 添加箇所	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<クリーンアップ> A 硫酸処理 回数 処理後の濃縮	コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：回。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
B アセトリル・ヘキサン分配 処理後の濃縮	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

C シカゲルクロマトグラフィー 充てん量 シカゲル 硫酸ナトリウム 溶出 溶媒の種類 量 処理後の濃縮	コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：g。 数値（半角）入力。単位：g。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
D 硫黄処理 方法	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
E その他の処理 方法	コンボボックスより選択。 具体的に記入。
シリンジスパイク 添加 添加物質	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分析用試料液 溶媒の種類 試料液量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 GC/ECD又はGC/MS分析用試料液の量であり、 <u>GCへの注入量でないこと</u> に注意する。
<GC/MS又はGC/ECD> 対応物質 1~10塩素化物	(対応物質ごとにGC/MS又はGC/ECD 1~3に記入する) チェックボックスにチェック。分析対象とした塩素化物を選択。
GC 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
パックドカラム 材質 担体 液相 内径 長さ	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。
キャピラリーカラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μm。

昇温条件	温度 (°C)、温度保持 (分)、昇温速度 (°C/分)、昇温回数 (回)とも数値 (半角) 入力。5 回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
注 入 量 注入口温度 注 入 方 式	数値 (半角) 入力。単位: GC への注入量 (μ L) を記入。 数値 (半角) 入力。単位: °C。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
キャリアガス条件 種類 流量 圧 力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。 数値 (半角) 入力。 単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
メイクアップガス条件	キャリアガスと同様に記入。
MS 型式 装置型式 イオン化検出法 測定時の分解能 イオン化 方法 電 圧 電 流 イオン源温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。整数。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: V。 数値 (半角) 入力。単位: μ A。 数値 (半角) 入力。単位: °C。
<標準物質(液)> 種類 PCB(対象物質) サロゲート シリジスパイク 製造メーカー PCB(対象物質) サロゲート シリジスパイク 標準液の調製からの経過月 PCB(対象物質) サロゲート シリジスパイク	種類は、コンボボックスより選択。 「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 製造メーカーは、コンボボックスより選択。 「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 調製からの経過月数は、数値 (半角) 入力。単位: 月。

<p><検量線の作成></p> <p>方法</p> <p>作成点数</p> <p>作成範囲 最小濃度</p> <p>最大濃度</p> <p>繰り返し数</p> <p>サロゲート (濃度)</p> <p>シリンジスパイク (濃度)</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>数値 (半角) 入力。整数。</p> <p>数値 (半角) 入力。GCに注入する標準液の濃度($\mu\text{g/L}$)を記入。「ゼロ(0)」は含めず、異性体で異なる場合には最小値を記入。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位: 最小濃度と同じ。異性体で異なる場合には、最大値を記入。</p> <p>数値 (半角) 入力。整数。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位: $\mu\text{g/L}$。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位: $\mu\text{g/L}$。</p>
<p>装置安定性 感度変動</p> <p>保持時間変動</p>	<p>数値 (半角) 入力。単位: %。</p> <p>数値 (半角) 入力。単位: %。</p>
<p><内標準物質の添加量と回収率></p> <p>サゲート 添加量</p> <p>サゲート 回収率</p> <p>シリンジスパイク 添加量</p>	<p>使用した内標準物質に該当する欄に記入。「その他」の内標準物質を使用した場合には、具体的に記入。</p> <p>数値 (半角) 入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。</p> <p>数値 (半角) 入力。添加した内標準物質の回収率(%)を記入。</p> <p>数値 (半角) 入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。</p>
<p><空試験値及び感度係数(RF)></p> <p>空試験値(操作ブランク)</p> <p>感度係数(RF)</p> <p>検出下限</p>	<p>数値 (半角) 入力。同族体 (同一塩素数の全異性体) としての値を記入する。試料濃度($\mu\text{g/kg}$)に換算した値で記入(分析結果と同じ単位とする)。<u>空試験値が検出されない場合には記入しない(空欄とする)。</u></p> <p>数値 (半角) 入力。GC/MSの場合に記入。同一塩素数の全異性体の平均RFを記入。</p> <p>数値 (半角) 入力。検出できる試料中の最小濃度($\mu\text{g/kg}$)を<u>有効数字1桁</u>で記入(分析結果と同じ単位とする)。同族体 (同一塩素数の全異性体) としての値及び全体の値 (PCBとしての検出下限) を記入。</p>
<p><測定質量数></p>	<p>各塩素化物ごとに選択 (定量に用いた質量数を選択)。</p> <p><u>質量数の表記は、記載しているマニュアル等により異なっていることもあり、四重極型MSの場合、質量数1以下ではそのことを考慮して選択する (近い質量数を選択する)。</u>また、<u>高分解能型MSの場合、質量数0.01以下ではそのことを考慮して選択する (近い質量数を選択する)。</u>なお、「その他」を選んだ場合には、数値 (半角) で具体的に記入。</p>

4-10 分析結果報告書 [10]

底質試料に関する分析結果報告書[10]の入力方法の詳細を記します。

2方法の分析結果の報告を可能としており、2方法の結果を報告する場合には、一つの方法を分析結果報告書[9]に、他の方法をこの分析結果報告書[10]に記入する。

一つの方法で行った場合には、分析結果報告書[9]に記入し、この分析結果報告書[10]には記入しない。

表4-10 底質試料(PCB)(分析結果報告書[10])

表4-9 底質試料(PCB)を参考に記入する。
